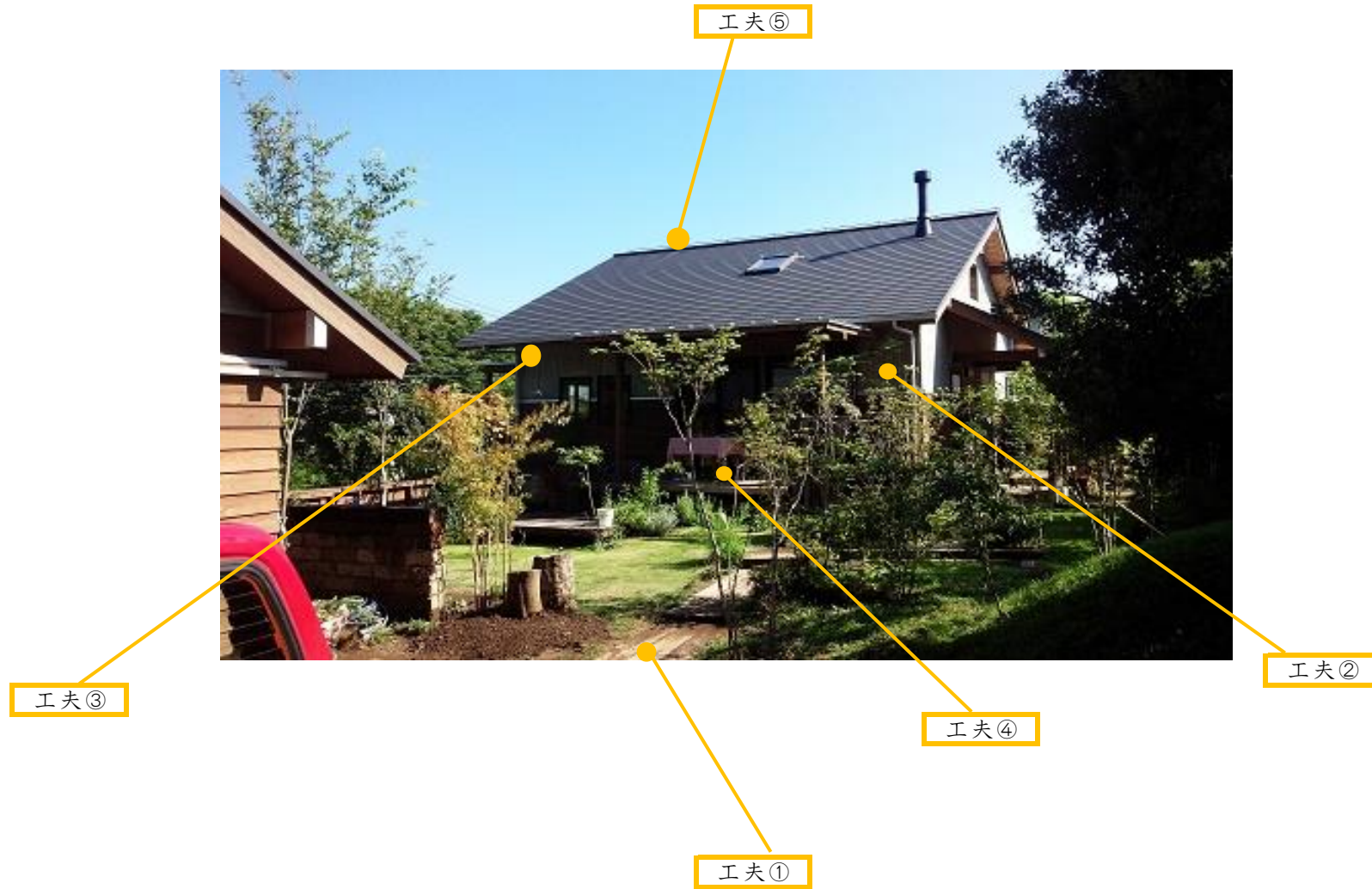


「外気温40℃でもエアコン一台で快適に暮らす省エネ住宅」
あなたはまだ暑い家に暮らしますか？



工夫① 熱を蓄えない

アプローチや駐車場などはコンクリートのような熱を蓄え照り返しのきつい素材は使わず芝生と古枕木を敷きこんで造りました。
自然の風合いと雨水が地下に浸透しやすく環境にやさしい設計です。

工夫② 遮熱、断熱

建物本体は次世代省エネ基準を大きく上回る性能とし、外気の影響を受けにくい造りとなりました。
また、軒の出を大きくとり日差しを遮るとともに風雨から外壁を守るようにしました。
外壁、屋根とも通気層を設け、日射で温められた熱が内部に籠らないようにしました。

工夫③ 大きな庇

南面、西面の大きな開口部にはデッキとそれを覆う屋根を設け、日差しを遮り日陰をつくとともに、アウトドアの利便性を高めました。

工夫④ 植栽

建物を取り囲むように植栽を配置し、植物の蒸発散作用で涼を得るようにしました。
植えた樹木は雑木で落葉樹ですから夏は日差しを遮り、冬は葉を落とし日当たりよくしてくれます。
雑木はコナラやクヌギ、アオダモ、ケヤキなど葉が上につく樹木ですからやがてマントのように建物を覆って木陰を作ってくれます。緑は目にも優しく、心地よい空間を作ってくれます。



工夫⑤ 屋根散水

屋根はもっとも熱くなる部位ですから散水装置を設け屋根面を冷やす工夫をしました。大げさな装置ではなく水道管を屋根まで延長し業務用温室で使うような散水ノズルをとりつけたシンプルな作りです。ミストを発生させ、屋根面だけでなく建物周囲も気化熱で冷やします。

工夫⑥ 通風

トップライトや引き戸を多用し、上下左右まんべんなく風が抜ける間取りとしました。また開口部からは外の植栽が目に入るように植え込みを設けてあります。

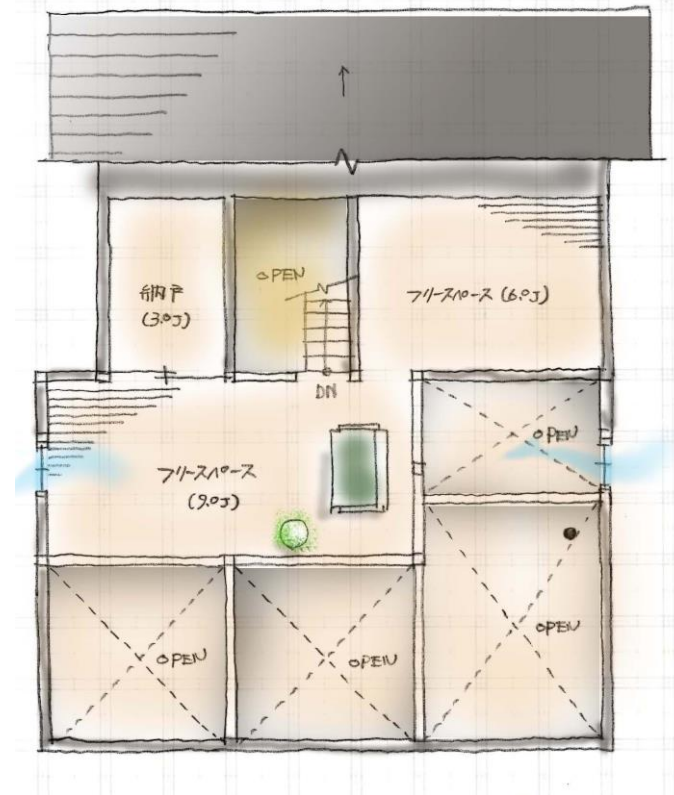
工夫⑦ 自然素材

内装材はパインなどの無垢材を多用し、木の持つ調湿作用で梅雨時のじめじめべたべた感を無くしました。





1階平面図



ロフト平面図